

第2学年 国語科学習指導案
単元名：読みを深め合う（教材名「走れメロス」）

指導者：

- 1 日 時 : 令和 5年 1月17日(火) 第5校時
- 2 場 所 : 2年 3組 教室
- 3 学年・学級 : 第2学年 3組(38名)
- 4 単元名 : 読みを深め合う(教材名「走れメロス」)

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ「目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること」を基にして、登場人物の言葉や行動が話の展開や作品の魅力にどのように関わっているかを捉える力をつけることを目標にしている。

本教材は、登場人物の言葉や行動、描写から様々な読み方ができる作品である。さらに、「誰がこの作品のいろいろなできごとの中で、一番苦しい思いをしたのか」ということに注目することで、登場人物それぞれの言動の意味を深く考え、内容をより深く捉えることができると考える。

(2) 生徒観

本校2年生の4月に行ったNRTの結果は標準偏差値平均50.8であり、おおむね全国平均程度の状況にある。しかし、「考えや感想をまとめ伝え合う」内容については、正答率が47.1%(全国50.0)であり、考えや感想をまとめたり、相手によく分かるように伝えたりすることを苦手としている生徒は多いと考えられる。

本学級の生徒は、日々の授業の中では、積極的に発表したり、集中して語句学習に取り組んだりする生徒も多く見られるが、反面、家庭学習や提出物に取り組むことが難しい生徒も多くいる。主体的な学習態度を育てるために、自主学習の場を設けたり、クロムブックに自主学習資料を提供したりしてきたが、なかなか取り組みに変化が見られない生徒の比率も高いと感じている。そのような中、期末試験の結果は二極化してきており、さらに細やかな手立ての工夫が必要だと感じている。

(3) 指導観

指導に当たっては、メロスを単に正義のヒーローとして「すごい!」「かっこいい!」で終わるのではなく、その奥にある登場人物の心情の深い部分に着目させ、作品の中の記述を根拠にしながら各自の考えをまとめさせたい。

メロス、セリヌンティウス、ディオニスの三人の中で「一番苦しい思いをしたのは誰か」という問いには、いろいろな捉え方や考え方ができると思われる。「友を人質として出発したメロス」「メロスの身代わりとして待ち続けるセリヌンティウス」さらに、多くは描かれていないが「暴君」としてその残虐な姿が印象的なディオニスの心情が、作者の巧みな表現によって描かれている。それらの表現をもとに人物像を各自が構築し、グループ学習の中での対話を通して深めていくことで、課題である「考えや感想をまとめ伝え合う」力を育むことができるのではないかと考えている。

(4) 本単元において育成しようとする資質・能力

本校で育成しようとする資質・能力は以下の4点である。

【知識及び技能】

- 【思考力、判断力、表現力等】 ① 伝える力 ② 問題解決能力
 【学びに向かう力、人間性等】 ③ 協働する力 ④ 公共心

この中から、本単元で育成しようとする資質・能力は次の点に重点を置くものとする。

【思考力、判断力、表現力】 ②問題解決能力

- ・さまざまな場面の登場人物の行動やその理由、情景描写の言葉に注目し、それらの記述を根拠として登場人物の心情を読み取る。それぞれが読み取った人物像を交流する中で、さらに深い人物分析を行う。

5 単元の目標と評価規準

○ 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
 (2) 登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。
 [思考力、判断力、表現力] C (1) イ
 (3) 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力] C (1) オ
 (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

○ 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っている。	①「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	①積極的に登場人物の言動の意味などについて考え、学習課題に沿って考えたことを文章でまとめようとしている。

6 指導と評価の計画 全6時間 (本時は5/6)

次	学習内容 (時数)	評価					
		知技	思判表	主体	評価規準	評価方法	資質・能力 (評価方法)
1	○あらすじを確認し、登場人物の正確や心情をまとめる。(2)	○	◎		〔思判表〕①登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。	ワークシート	

					[知技] ①情報と情報との関係を様々な表し方を理解し使っている。	ワークシート	
2	○3人の人物について、「誰が一番苦しい思いをしていたのか」という問いに対して、根拠をもって自分の考えをまとめる。 (2)		◎	○	[思判表] ①登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 [主体的] ①積極的に登場人物の言動の意味などについて考え、学習課題に沿って考えたことを文章でまとめようとしている。	ワークシート 行動観察	
3	○各自の考えを交流し、深める。(2) (1/2)【本時】		◎		[思判表] ②文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 [思判表] ①登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。	ワークシート 行動観察 ワークシート	②問題解決能力 (ワークシート) (行動観察)

7 本時の展開

(1) 本時の目標

登場人物の言動や描写に着目し、それぞれの苦しみについて考えることができる。

(2) 観点別評価規準

◎登場人物の心情について、描写を基に捉え、根拠を示しながら交流し、さらに深めている。

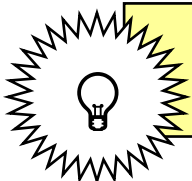
評価方法：ワークシート、行動観察

(3) 育成したい資質・能力の評価基準

資質・能力	評価基準
②問題解決能力	A 登場人物の言動や描写を基に、どんな苦しみを感じていたかを具体的に整理し、グループ交流を通して考えをさらに深めることができる。
	B 登場人物の言動や描写を基に、どんな苦しみを感じていたかを具体的に整理することができる。
	C Bを満たしていない。

(4) 準備物：教科書、ワークシート

(5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） （努力を要する生徒への指導の手立て◆）	評価規準 ○教科の事項 ☆資質・能力 （評価方法）
導入	<p>○新出漢字の書き取りテスト（5問）を行う。</p> <p>○今日の学習の流れについて確認する。</p> <p>課題の設定</p> <p>○本時の目標の確認</p>	<p>・プリントで行い，自己採点をする。</p>	
	【本時の目標】登場人物が抱えた「苦しみ」について考える。		
展開	<p>○前時にまとめたワークシートをもとに個人で人物像をまとめる。</p> <p>○グループで意見を交流する。</p> <p>整理・分析</p> <p></p> <p>○全体で交流する。</p>	<p>・3人の中から「一番苦しんだ人物を一人挙げ，作品中の表現を根拠にして整理させる。</p> <p>◆机間支援をしながら，これまでのワークシートを振り返らせ，注目するポイントをアドバイスする。</p> <p>・新しい気づきはワークシートにメモをとらせる。</p>	<p>○登場人物の言動の意味などについて考えて，内容を解釈している。</p> <p>（ワークシート）</p> <p>☆問題解決能力 登場人物の言動や描写を基に，なぜ「一番苦しんだ人物としたのか」を，根拠を示してまとめることができる。</p> <p>（ワークシート） （行動観察）</p>
	【主体的・対話的な学びの時間】 個人の考えをグループで伝え合う。		
まとめ	<p>○振り返りを行う。</p> <p>まとめ・創造</p>	<p>・自分の考えに変化があったかどうかを確認する。</p>	